

# 論文審査の結果の要旨

氏名 草苺 康子

本研究は、アフリカの持続可能な農村開発に重要な役割を果たすキャパシティの評価枠組を提示し、その有効性を量的かつ質的観点から検証した。その結果をもとに、キャパシティの研究と実践に貢献することを目指した論文である。

本論文は7章からなり、第1章では導入として研究全体の概要についてまとめ、第2章は関連する理論、および実務におけるキャパシティ開発及びキャパシティ評価に関する文献レビューを行った上で既存の理論や実務上の課題を整理し、それらを踏まえた本研究の位置づけを示している。

第3章では本研究の研究手法について記述しており、特にガーナ共和国（以下「ガーナ」）のワ・ウェスト郡（Wa West District）、およびマラウイ共和国（以下「マラウイ」）のムランジェ郡（Mulanje District）における計12村で行ったフィールド調査の詳細について述べている。調査地の選定は、各郡内の地理的分布および外部機関の支援によるキャパシティ開発を含む総合的農村開発プロジェクト（以下「プロジェクト」）の有無を基準に行った。プロジェクトの有無に関する基準は、さらに以下のように4つに分類される。すなわち、過去・現在ともにプロジェクトが実施（4村）、過去にのみプロジェクト実施（2村）、現在のみプロジェクト実施（2村）、過去・現在ともにプロジェクトなし（4村）の4つである。フォーカス・グループ・ディスカッションを主な手法とし、各村における開発リーダー（男・女）、それ以外の男性、および女性の3グループから聞き取りを行った。

第4章は、本研究を通して構築したコミュニティ・レベルの「キャパシティ評価枠組みとツール」を提示している。キャパシティ評価枠組みにおいて、開発成果に影響をおよぼし得る要因として内的要因と外的要因に整理し、内的要因にはコミュニティの基礎的主要属性とキャパシティが含まれるとした。さらにキャパシティは、機能的キャパシティ（functional capacity）と技術的キャパシティ（technical capacity）に分類される。技術的キャパシティは、各種セクターの知識・技術に関係し、各コミュニティの属性および開発における優先順位により必要とされる内容や、レベルも千差万別である。機能的キャパシティは、コミュニティが主体となり、開発を持続的に進めていく上で重要な、いわばソフトなスキルに係るものである。本研究では、機能的キャパシティを「相互説明責任（mutual accountability）」、「関与促進・参加（engagement and participation）」、「当事者意識（ownership）」の3つの要素から定義し、ガーナとマラウイにおけるフィールド調査およびサブサハラ・アフリカに関する各種文献のレビューを通して、サブサハラ・アフリカの農村コミュニティの多くで応用可能な共通指標を抽出し、評価に際し

て使用可能なツールを構築した。

第5章及び第6章では、第4章で構築した評価枠組みとツールを、ガーナとマラウイの調査村に適用した。第5章は主にキャパシティ、開発、その他の要因をそれぞれの特徴を踏まえて詳述し、第6章ではそれらの側面がいかに連関しているかについて分析を行った。その結果、持続可能な農村開発に大きく影響する、機能的キャパシティの重要な諸側面が、各種データ及び諸事例によって実証された。まず、「相互説明責任」は、コミュニティ内の信頼や透明性を確保するための基盤であり、開発リーダーの組織的プラットフォームの存在や情報共有メカニズムの重要性が浮き彫りとなった。「関与促進・参加」は自発的かつ包括的な開発を進める機動力であり、コミュニティの集会や協働への参加の度合い等に見られる内部の巻き込みと、自発的に外部機関に働きかけ開発プロセスへ取り込んでいく外部の巻き込みの両面の有用性が示された。「当事者意識」は、コミュニティ主導による開発を促進するものであり、コミュニティ内の資源 (asset) の認識・活用の度合いや、自助努力から把握した。さらに、開発援助対象地域と非対象地域を比較した結果、開発成果と技術的キャパシティの向上においては、開発援助による貢献度合いが確認された一方で、機能的キャパシティへの影響は限定的であった。また、プロジェクト形成段階及び実施段階における当事者意識の高低が、プロジェクト終了後の開発成果の持続性に影響していることが明らかとなった。

最後に第7章にて、主な論点のまとめを通じて、持続可能な開発に向け、機能的キャパシティの向上と開発プロセスにおける当事者意識の醸成が重要と結論付けられた。さらに開発機関が支援を行う場合とコミュニティ主導で開発を進める場合の、両方の場合において、いかにしてコミュニティのキャパシティを向上し得るかという視点から提言を行うと共に、キャパシティ・アセスメントのプロセス自体が気づきと変革を促し得る可能性を論じている。

本研究は、これまで、アフリカの持続可能な農村開発に重要な役割を果たすとされつつも曖昧に捉えられてきたキャパシティを、特に、アフリカの農村の特徴を踏まえたうえで、その有効性の量的かつ質的観点からの検証を通じて他のアフリカ諸国での適用可能性も考慮した評価枠組みを構築したものである。これは、キャパシティに関する研究および社会実装に大きく貢献するものである。

したがって、博士 (サステイナビリティ学) の学位を授与できると認める。